

総括質疑

新年度予算や市長の施政方針などに対し、総括質疑が行われました。

新風会

青柳 隆 議員



質疑 「新しい高崎」の実現に向け、新年度予算編成に当たり特に心掛けた点や配慮した点は。

答弁 平成29年度予算編成も徹底した事業費の削減、重点事業の積極的な推進、人件費の圧縮の3つを基本方針に掲げ、市内経済の活性化と市民福祉の充実に向け予算編成に取り組んだ。

質疑 高崎ブランド・シティブ

答弁 インターネット技術を活用し、首都圏在住者や来訪者、世界に向けて本市の魅力や地域資源を広く発信できるような仕組みを構築する。また、農業者新規創造活動事業では、ドライ商品やジュースの開発など22件を交付決定した。今後も農家の所得向上や農業分野での高崎ブランドの確立に取り組む。

容や予定、本市の支援は。

答弁 介護SOSサービスは、昨年12月末で、訪問サービスが401件、宿泊サービスが30件あった。また、新病棟の建設は増加する入院患者や手術件数などに対応するためである。7月に着工し、平成30年10月に竣工する予定である。本市では、12億円の債務負担行為を設定した。

質疑 病後児保育の全時的な配置バランスを考慮すべきだが、考えは。また、気になる子の早期発見、早期支援には保護者の理解が欠かせないが、考えは。

答弁 年々高まるニーズや実施施設の地域バランス等を考慮し、病院関係者などと協議しながら、施設の拡充に努めたい。気になる子に対し、こども発達支援センターでは、保育現場への巡回相談で保育士や保護者へのアドバイスを行い、センターとの個別相談につなげることで信頼関係を築きつつ、保護者の理解が得られるよう支援を行っている。（その他の質疑）

公明党

丸山 寛 議員



質疑 高崎オーバ（仮称）で高崎産農産物やパスタを提供するが、目指すものは。また、中央銀座商店街の再整備で市全体のにぎわい創出につなげる考えは。

答弁 高崎の魅力を広げ提供し、商品や店舗の知名度を上げ、高崎ブランドの確立を目指す。また、アーケードの再整備では、店舗の外観などを統一し、昭和の風情漂うまちづくりを進め、新たなにぎわいを創出する。

質疑 障害者支援SOSセンター（仮称）の意義と概要は。また、放課後児童クラブの今後は。

答弁 センターは、障害者に関する悩み事等についても受け付け、障害者やその家族等への支援体制強化を図る。また、放課後児童クラブの整備は、空き家、空き教室の活用にも積極的に取り組むとともに支援員の資格取得や資質向上に係る研修についても引き続き毎年実施していく。（その他の質疑）



「新しい高崎」を目指して

市民クラブ

木村 純章 議員



質疑 三重県津市では、今後40年間の公共建築物の更新費用を推計し公開している。本市でも既存施設の改修費を積算する必要があると感じるが、見解は。

答弁 数字を出している市町村もあるが、単純な机上計算をしているだけである。公共施設の修繕等は財政や各施設の状態、地域の実態、議会の審議などを踏まえ予算を確保していくものと考えている。

質疑 支所地域支援として、1地域当たり2000万円が計上されている。今後は、基本額に面積や人口割応分を加えていく段階と思うが、考えは。

答弁 道路維持補修工事について、

日本共産党

伊藤 敦博 議員



では、傷みの具合などそれぞれ状況が異なるため、各支所の実態等を考慮し予算配分している。地域住民の安心・安全を第一に考えた維持補修等が進められるよう今後も留意していきたい。（その他の質疑）

質疑 高崎アリーナは、平成26年度に109億円の事業費でスタートしたが、最終的には150億円を超える支出となり市民から批判の声がある。高崎文化芸術センター（仮称）の工事費は、いくらになる見通しなのか。

答弁 高崎文化芸術センターの建設費用は、既に発注している本体工事や舞台照明などで約260億3000万円、今後発注予定の外構工事が約1億円、合わせて261億3000万円を予定している。今後も建設物価等の変動に注視し、経費の節約に努めていく。（その他の質疑）

一般質問

市政を問う

議員が市政全般について、その事務の執行状況や将来の方針等の報告・説明を求めたり質問することをいい、毎定例会で行われます。質問者順で掲載しています。

さらに詳しい内容は会議録で ※5月末から市議会ホームページや図書館でご覧いただけます。



高崎市労使会館のトイレ
マイナンバーの影響

田村 理



質問 高崎市労使会館のトイレの洋式化やバリアフリー化の取り組み状況は。

答弁 各階の男女トイレとも1

質問 マイナンバーカードを申請し、現在そのカードが手元に届き、各種サービスを実際に利用できるのは全市民のたった6・8%にすぎないが、莫大な税金が投入されている。マイナンバー制度開始に伴い市民に何を求めているのか。

答弁 今後、自治体間の情報連携やマイナンバーの利用が開始される。今後も国の動向を見極めながら対応していく。



近居・同居の応援
大人版救急電話相談

小野 聡子



質問 親の家の近くに家を建てたり借りる場合や2世帯住宅に建て替える場合の支援策は。また、若い世代が空き家を活用する場合の改修費やローン返済、家賃補助などの支援の考えは。

答弁 倉洲・榛名・吉井地域で土地や住居を取得した場合、融資の利子を5年間全額補助している。また、建て替えなどの住宅改修には上限20万円を助成し

ている。空き家を改修する場合は費用の2分の1、上限250万円、前述3地域の空き家を借りる場合は家賃の2分の1、上限月額2万円を助成している。今後もさまざまな観点からなる支援策を研究したい。

質問 市営住宅の世帯用の空き部屋を単身者同士で住むような活用はできないか。

答弁 同居可能な資格要件が親



多くの人でにぎわう高崎だるま市



高崎だるま市
浜川運動公園の拡張

時田 裕之



質問 街中で1月1日、2日に開催した高崎だるま市は、予想を超える人でにぎわっていたが、実績と効果は。

答弁 2日間で約25万人が来場した。高崎だるまの販売は、初日分がすぐに売り切れ、2日目の販売分を急ぎよ用意したと伺っている。特大だるまには、記念写真を撮る行列ができ、高崎だるまを大いにPRできた。ま

た、飲食店では入店待ちの行列ができたと聞いている。

質問 第1回の高崎だるま市を実施した感想は。

答弁 多くの来客を迎えることができた。街中で開催した事実と合致し、成功したと認識している。来年は会場を駅前からあ